

令和4年度 認知症地域支援推進員の活動実績

1 配置人数

- ・認知症の人や家族への相談業務や支援機関間の連携強化等を行うことで、認知症事業を推進するため認知症地域支援推進員を設置。

令和4年度は計24名を配置。

- 【内訳】 地域包括支援センター18名
地域包括ケア推進課3名
福祉相談センター3名

2 認知症地域支援推進員会議の開催

- ・認知症地域支援推進員間の情報共有や施策の検討等、連携を図るため、定期的に会議を開催。第3回の会議については、認知症地域支援推進員研修を併せて実施。

【第1回】日時：令和4年6月3日（金） 午後1時30分から

会場：川越市民サービスステーション会議室A・B

〔主な議事〕

- ・認知症サポーターステップアップ講座について
- ・本人ミーティングについて
- ・認知症相談会・認知症ケア専門相談会について

【第2回】日時：令和4年9月2日（金） 午後1時30分から

会場：川越市民サービスステーション会議室A・B

〔主な議事〕

- ・認知症サポーターステップアップ講座について
- ・本人ミーティングについて
- ・認知症ケアパスについて
- ・認知症地域支援推進員研修について

【第3回】日時：令和4年12月2日（金） 午後1時30分から

会場：川越市民サービスステーション会議室A・B

〔認知症地域支援推進員研修〕

講義：認知症ケア～孤独の理解から～

講師：社会福祉法人真正会 中間浩一氏

内容：老いや認知症の孤独や苦しみを理解し社会全体で共有する必要性等

〔主な議事〕

- ・ 本人ミーティングについて
- ・ 認知症サポーターステップアップ講座について
- ・ 認知症予防教室について

【第4回】日時：令和5年3月3日（金） 午後1時30分から

会場：川越市民サービスステーション会議室A・B

〔主な議事〕

- ・ 認知症予防教室について
- ・ オレンジカフェについて
- ・ 認知症相談会等について

3 主な取組内容

- ・ 国が示している推進員の主な役割「Ⅰ～Ⅲ」を取組の柱として活動を行った。

I 医療・介護等の支援ネットワークの構築

(1) 川越市お帰り安心ステッカーの周知ポスターの 掲示依頼と配布

市民への普及啓発のため、配布先の検討を行い、市内医療機関や銀行、郵便局、民間商業施設（スーパー、コンビニ、ドラッグストア）等へ周知ポスターの掲示依頼と配布を行った。また、コミュニティケアネットワークかわごえに協力いただき、賛同事業所への配布を行った。

また、公民館に「公民館だより」への掲載を依頼し、広く周知をおこなった。

- ・ 依頼先店舗 計596件
- ・ ポスター配布枚数 計1,020枚



<令和4年度：川越市お帰り安心ステッカーにより、身元が判明した事例>

- ・ 転倒していたところを警察が発見。本人に外傷等はなく、お帰り安心ステッカーの情報から家族に連絡し、家族と一緒に帰宅することができた。
- ・ 市民から、「ステッカーを貼っている方が迷っている」との連絡が消防に入った。けが等はなかったため、お帰り安心ステッカーの情報から家族に連絡し、無事に帰宅できた。

(2) 認知症地域支援推進員による研修会の実施

認知症地域支援推進員の発案により、認知症地域支援推進員や関係機関向けの研修会を開催した。

〔認知症地域支援推進員等研修会〕

講義：「認知症の新しい基礎知識－BPSD について－」

講師：佐々木政子氏 埼玉県認知症介護指導者/認知症地域支援推進員

内容：BPSD における新しい考え方

Ⅱ 関係機関と連携した事業の企画・調整

(1) 本人ミーティングの開催

令和3年度に開催した「本人ミーティング～当事者の思いを聴く～」の振り返りを行い、認知症の当事者同士が話を共有できる場所の大切さを改めて実感したことから、認知症地域支援推進員を中心に本人ミーティングを継続的に開催していくこととなった。

【第1回】日時：令和4年9月9日（金）

午前10時30分～11時30分

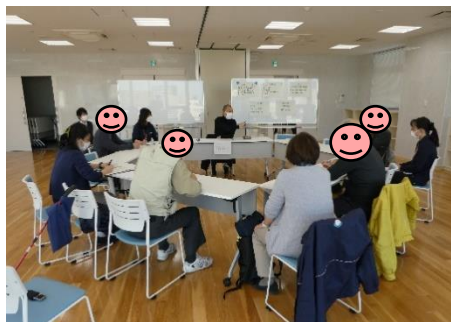
場所：子育て安心施設「すくすくかわごえ」5AB多目的室

〔主な内容〕

- ・もしも自分がひとり暮らしだったら
- ・毎日の生活で工夫をしていること

<認知症の本人からの言葉（一部）>

- ・認知症でも、日常生活がまわっていれば、困ることはない
- ・ひとり暮らしだと認知症に気づく対象がないので、自覚がない
- ・認知症だと医師に認知されないのがつらい



【第2回】日時：令和5年1月20日（金）

午前10時30分～11時30分

場所：子育て安心施設「すくすくかわごえ」5AB多目的室

〔主な内容〕

- ・やりたいこと、挑戦したいこと
- ・現在やっていること

<認知症の本人からの言葉（一部）>

- ・本当は何もしたくない ・本をたくさん読む、書く
- ・「認知症」の幅を広く取ってほしい ・頭では覚えているが、取り出せない
- ・言葉が早いと話についていけない ・持ち物を落とさないようにベルトにぶら下げている

(2) 9月21日世界アルツハイマーデーにおける認知症普及啓発パネルの展示

【パネル展示】

認知症に対する理解の促進を図るため、パネル展示を実施。パネル展示と併せて認知症に係る各種チラシも市民が自由に取得できるよう設置。認知症に関する正しい知識の普及啓発を行った。

場所：川越市民サービスステーション（U PLACE 3階）

期間：9月12日～28日

<パネル展示の様子>



【パンフレット配布】

認知症の人と家族の会と連携し、世界アルツハイマーデーに関するパンフレットを配布し、普及啓発を行った。

場所：川越駅西口及び東口デッキ

日時：9月21日 11時～12時



(3) 各事業の実施に向けた検討（主な事業）

下記の主な事業については、認知症地域支援推進員会議において検討を行った。

① 認知症サポーターステップアップ講座（チームオレンジ）

認知症サポーターがチームオレンジとして活動するための認知症サポーターステップアップ講座を2つの圏域で実施し、それぞれの圏域にチームオレンジが立ち上がった。2つのチームオレンジをモデルケースとして、横展開を図るべく、情報共有を行った。

② 本人ミーティング

本人ミーティングの開催方法の検討や開催後の本人の感想や意見を共有した。また、開催に向けて本人ミーティングの対象者の把握状況についても確認し、共有した。

③ 認知症予防教室

教室の冒頭で認知症地域支援推進員が行う講話について、参加者の様子や教室で主となる講義を行う講師との調整において、講話の時間や内容を設定できるよう見直しを行い、より柔軟に認知症予防の講話が行えるようにした。

④ オレンジカフェ

コロナ禍による開催中止からの再開状況やオレンジカフェの課題等について情報共有した。今後、これからのオレンジカフェのあり方等について検討していく事となった。

Ⅲ 相談支援・支援体制の構築

(1) 認知症の人や家族への相談支援

① 認知症に関する相談対応

- ・福祉相談センター 190件（相談受案件数）
- ・地域包括支援センター 14,700件（相談受理・対応件数）

② 認知症ケア専門相談事業との連携した相談支援

- ・医師による認知症相談会 計30組（10回）
- ・認知症ケア専門相談会 計16組（9回）

(2) 認知症の相談支援等における事例検討や情報共有

認知症地域支援推進員会議にて認知症に関する事例やアプローチ方法について共有した。

(3) 認知症地域支援推進員研修の受講によるスキルアップ

認知症介護研究・研修東京センターが開催する認知症地域支援推進員研修（厚生労働省標準カリキュラム）を受講し、認知症地域支援推進員としての知識の習得等スキルアップを行った。

研修受講人数：新任者研修12名、現任者研修8名